

出炭坑夫罷業の場合
軍隊の炭坑接收期待

軍府昨日(P. 1)ロイスの組合員四十五万の炭坑夫が總四能業の場合、ロイス領土に對する處置として、政府は、国内有煙炭坑全部を接收し、之が作業を續ける事となるは確しである。責任ある政府筋は今夜豫期されるストライキ教時前に発表された。軍隊は炭坑が愈々政府の手に移る間炭坑の總の財産を保護するが、此間何等の暴動と成る虞れ無き場合、軍隊は直ちに引揚げるであらう。ロイスと組合員炭坑夫は大統領の最後通牒に對し、協するの意思無しと見られ、無き情勢であらう。即ち大統領の最後通牒は明日(土曜)午前十時迄に全炭坑夫は復業しなればならぬ事と成つてゐる。然し、これは大統領として、又、陸海軍總司令官としての権限を行使するにエズンあり、紐育に之開かれたる炭坑主と坑夫組合

ロースバーク
日本人
收容所
知事司
五月一日
土曜発行
オニ二二号

この合議に於て、契約の改正、又は繼續は共に失敗に終つた。而してペンシルバニア州に於ける、ハリッドコル坑夫八万人は、ソフトコルウオークアラトに合流すべく豫期されて居る。一方、ロイスは、今日大統領の最後通牒に對し、未確定の返答を待たず、戦時労働仲裁局は、労働争議を解決する適當なる政府代表を無りから炭坑夫の労働契約に關し、再び紐育にて合議を再開する提唱した。今や、陸軍は炭坑に向ふ軍隊の用意完了、この出動の死線は大統領の最後通牒に於て期限の時間である。

佛領印度島と米國の手切れ

華府昨日(國際電)國務省は本日佛領西印度マールチニク島總督、ケヨシロハート將軍に對し、佛領西印度諸島對合衆國との條約を廢棄するを白告した。ハルト國務省の聲明に據れば、カルヒアン海に於ける西印度島は、我海軍の警告する所は、樞軸側が利用し、是場を人とする危険ある故、佛本國との關係を断絶せしむべく、マールチニク島ポート、フランス駐在米國領事、エマ、マリッヂとして屢々交渉を行はしめたるが、總督ケヨシロハートは、我方の提案を認めざるため、四月廿六日マリッヂ領事は、之が最後の通牒を行つた。此問題に對し、フランス海軍長官は語る、この後同島に對し、我海軍は益々警戒を嚴重に行ふが、同島は我方より

マンザナの父兄、教師会に出席せし、フレノ(廿七日A. P. 電)加州マンザナセンターの日本人父兄七名と、同所内に在る公立学校教師は、今回、毎月開催される加州父兄教師会代表会へ出席した。五月を申込んで来た。

此の申込を、受諾するや否やに就いて、廿八日開催する合衆理事會に諮る筈である。加州父兄教師会々長イ、テイ、ハル夫人は述べた。此事に對し、我少意見を果にする人があるにしても、我政府は、全米父兄教師会(日本人が協力協せんことを希望してゐる精神から見て)寧ろ喜んで受諾すると思ひます。然し、教中には、日本人も出席させるべしや否やは投票に依り決すべしと主張する人もあり、我が父兄教師会は、もつと寛大精神のものをだかうぞ云々。

上陸するや否やは不明である。因に佛領西印度マールチニク島其他はカリビアン海聯合側諸島に括せられた小諸島である。日本の驚嘆すべき文化の美点を具有する日系市民が米國に存在することを歓迎する。同時に、二世少数の不審と不評判のため、この教団が批難されるを遺憾とするとは日本及日本人を知る、前駐日大使がルウにより始めの言ひ得る言葉だ。

才三隊文化講座 五月廿週 十中隊食堂 午前八時半	午後七時
和歌解説 矢野文洋氏	
常設圖書講話 石山實三氏	十二中隊食堂
芥根澤講話 三明文士	戦争と國權 石崎和松氏
川柳に就て 中武直喜氏	地政学 才三隊一滿 毛利医学博士
漢詩に就て 景山三郎氏	
英語夜學校 渡辺先生組 火、木、土、七時半、十一中隊食堂 中林先生組 月、水、金、七時半、十中隊食堂	
講演、浦中三郎氏、日月水金、七時、十二社交 社交の講習 春原侯氏、火、木、土、七時、十二	
◎佛教禮拜 明日(曜)夕七時半 才十中隊食堂	田名大正師
勤行十二祀 淺敷 羅摩禪會寺 七島養岳師	
◎基督教禮拜 明日(曜)午前九時 才十中隊社交室	神野牧師
司會 說教 聖澤即歡喜 田本牧師	
入院 小島和夫氏(才六中隊五寮)	

